南インドの大学ＭＩＴＳの MBA コースで講演

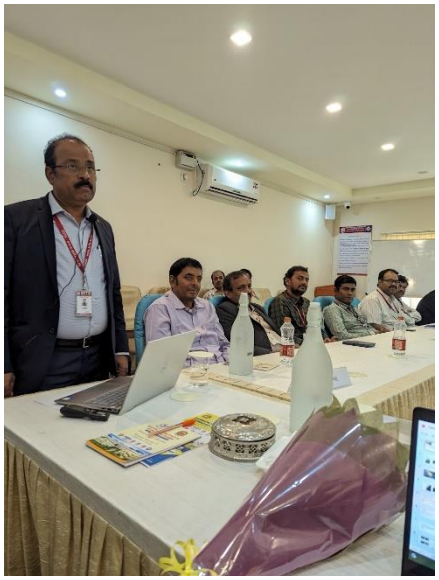
2023 年 8 月 6 日　白田由香利

2023 年 7 月下旬に，南インドのベンガルール近郊のマダナパレ工科大学(Madanapalle Institute of Technology and Science, MITS)で講演をしてきました．東洋文化研究所のプロジェクトとしてインドの SDGs 分析の研究を行っていますが，そのための共同研究で行ってきました．親友の Basabi Chakraborty 先生が昨年から MITS の計算機学部学部長及び特任教授をなさっているので，本当はもっと早く MITS に行きたかったのですが，コロナのため長く来ることができませんでした．コロナが明けてようやくインドに来ることができました. 7/30 深夜 0 時にバンガルール空港に到着. そして空港近くの Taj（タージ）Bengaluru に宿泊．治安のよくないインドで，Taj のスタッフのドライバーさんがプラカードをもって出口のところで待っていてくれるのを見つけると，本当に安堵します．チェックイン後，朝食もとらず昼 12:00 のチェックアウトまでひたすら眠ります．日本からは私と H 教授，K 教授の 3 人です。

昼に大学スタッフ 1 名と，Basabi Chakraborty 教授が我々3 名を迎えにきてくれました．マダナパレ大学はバンガルール空港から遠く 3 時間はかかるので，この日はホテル **Horsely Hills** までの移動で終わりです．このホテルはマダナパレから少しはずれた高い山の上にあります．これは大学の近くのエリアでは砂埃がひどいので，我々の健康を考慮した上で離れた場所のホテルを選択してくれたもようです．ホテル及びすべての送迎はドライバー付きで大学の車を出してくれました．マヒンドラマヒンドラ社製のかっこいい 4 輪駆動の大型車です．ジャングルや林の間をまっすぐに続く広大な道を走るには，強い駆動力が必要です．

＜講演会とレクチャー＞

始めに MITS 学長及び教授陣との会合があり，両大学の構成などを説明しました．大学の 2 か所に写真のような看板ポスターを飾ってあり大歓迎を受けました. これも Basabi 先生のおかげです．その後，講演会を行い，我々 3 人の発表，そして，一緒に論文を書いている Prof Sreekanth の講演を行いました．非常に受けました．H 教授は，彼女の大学の副学長をしているので，新聞発表に出席せねばならず，この晩にお帰りになりました．



講演が面白かったので, MBA コースでも話してくれないかということになり, 2 日目，レクチャーを Prof Sreekanth と一緒に行いました．非常にのりのよい学生の皆様で，大いに Q＆A セッションで盛り上がりました．Prof Sreekanth の話によると，大学のガードマンさん (校内に多くの人が立って警備しています) も，お金をためて，ここに入学しプログラミングを勉強して，そしてプログラマとして高給をとるようになるそうです．そういう DX 関連の職は世界中にたくさんあります．そして，近くのベンガルールはインド最大の IT 都市です．アメリカのシリコンバレ

ー，インドのベンガルールが世界のデジタルの拠点です．ご近所にそうした大発展都市があれば，誰でも「私もステップアップしよう」と勉強したくなる雰囲気があるのでしょう．そういう勢いがこの大学には，そしてインドにはあります．人口分布を見ても，インドはこれから若い世代の人口が継続します．これは日本の少子高齢化による労働力低下から見るとうらやましい限りです．私が思うに，MITS の原動力は，ベンガルールの波及効果によって，マダナパレの土地が高騰してお金が稼げたのではないかと思います．地域 GDP も相当あがっているのではないのでしょうか？　ベンガルールへの道路も舗装工事中のところが多く，これ自体はよいことなのですが，これが砂埃の原因となっています．キャンパス内でも学生寮の建設が大規模に進んでいます．マダナパレ工科大学はこうした勢いを感じさせていれる大学です．

白田が着物なのに，草履をはいていないと思う方がいらっしゃるでしょうが，この広大なキャンパスでは，革靴でないと歩けません．帯にはさんでいるのは扇子ではなくレーザーポイントです．どこでもプレゼンです．

＜聖なる牛のミルクがおいしい＞

食事ですが，ランチは大学スタッフと会議室で頂きます．夜はローカルレストランへ連れて行って頂きました．スパイスをゼロにしてもらっても，それでもスパイスが効いていて辛いです．私はトマトスープとタンドリーチキン（ゼロ・スパイス）をいつも食べていました．マダナパレはアジア最大のトマト生産地域で，トマトが非常においしかったです．カレー各

種を勧めてくださるのですが，「明日の講義のため喉をプロテクトしないと」と言って断ると皆さん納得してそれ以上は勧めません．講義とディスカッション第一ですから．

一番印象に残るおいしい食べ物は，聖なる牛のミルクでした．私が動物好きなのを知って，大学スタッフが近所のお寺付属施設のような，聖なる牛の農場に連れて行ってくれました．夕方，牧草地から聖なる牛が農場に帰ってきます．餌を食べた後，細い道を一列になって悠々と牛舎に歩いていきます．イメージとしては，アルプスの少女ハイジのエンディングの歌で山羊が一列に歩いていく，あのような感じです．これは壮観でした．ミルクも大変おいしかったです．山からレオパードなどが牛を襲いにくるので，牧羊犬も 5 頭ほどいました．本当に戦いになるのでしょう．

ホテルは山の上にありますが，この山には，レオパード，山のイノシシ，サル，そして，私の大嫌いなパイソンも出るそうです．とても山歩きできるような雰囲気ではありません．サルも力が強そうで，怖いです．我々は一歩も車からは出ません．市街地も信号はなく，車が大混雑状態です．聖なる牛が引く牛車の後ろを大型のスクールバスと，タタモーターズの大型トラックが並んでジャムっている，それがマダナパレの市街地の道路です．バサビ先生に「日本人はこの道路を渡れるわけがない．私も渡れなかった」というほどですから，とても日本人が車から降りて一人で散策ということは不可能です．

インドはその場でリスケが頻繁に起こります．「次は何が起こるのですか？」といつも聞いていないと，どこに連れていかれるのか分からないです．日本人は 1 か月前にスケジュールをきちんと決めておかないと気が済まないところがありますが，インドでは，その場で柔軟に対応する必要があります．「え」と驚いて，それに対応するためのｐｐｔを慌てて大学の自分のファイルサーバから取ってくることが多く，WiFi のクラウド SIM 1GB はあっという間になくなってその場でクラウド SIM を買いました．それが日本とインドで一番違うと感じたことです．

以上